

福井駅周辺の歩道上駐輪区画の利用実態と歩行者の意識

福井工業大学 正会員 和田章仁

1.はじめに

都市の鉄道駅周辺や中心商業地においては、現在もなお放置自転車によって、歩行者の円滑で安全な通行に支障をきたしている。このようなことから、各自治体ではこれらに対して、駐輪場の整備や放置自転車の撤去などの施策を鋭意取り組んでいるところであるが、その解決には至っていない。

このような状況から、現在、全国のいくつかの都市で鉄道駅周辺およびその周辺商店街において、放置自転車対策の一環として、歩道上に駐輪区画を設置することが試みられている。そこで、今後の駐輪対策の方向への示唆を得るため、福井駅周辺に設置されている歩道上の駐輪区画（「駐輪エリア」と呼称）に着目して、沿道商店街¹⁾および自転車利用者²⁾に対して調査・研究を進めてきた。さらに本研究では、この歩道上駐輪区画を対象としてその実態を把握するとともに、歩行者の歩道上駐輪に対する意識を分析するものである。

2.調査の概要

調査は平成13年10月18日（木）および10月21日（日）の両日の朝10時、昼15時および夜20時に、福井駅前および周辺の駐輪エリアにおける駐輪実態を把握すると共に、その歩道を通行している歩行者を対象としてアンケート調査を実施した。

アンケート調査の設問項目は、個人属性、自転車利用頻度、歩道の歩きやすさおよび駐輪エリアの認識程度とその評価である。取得票数は18日が113票、21日が131票の合計244票である。

3.歩道上駐輪の実態

駐輪台数の実測調査は、駅前広場に相対する道路の歩道上に設置されている駐輪エリア（駅前地）と約50～80m離れた商店街の駐輪エリア（駅周辺地）の2箇所を抽出して、それぞれの駐輪エリア内と外に駐輪

している台数を測定し、この結果を表1に示している。これを見ると、平日における駐輪比率は両地点とも15時、20時と比較して10時が最も低い。このことは平日では通勤・通学者が朝に鉄道で駅まで来て、駐輪している自転車で勤務先および通学先へ向かうことの結果であると傍証できよう。

さらに特徴的なことは、平日の駅前地と休日の駅周辺地の特徴が顕著である。平日の駅前地は朝と夜の台数差が大きいことは、駅に近いことから通勤・通学者の影響を受けやすいことがその理由と思われる。また、休日の駅周辺地は昼の駐輪台数が高い割合であることから、周辺商店街への買い物客の影響を大きく受けているものと推測できる。したがって、駅前地が通勤・通学者の影響を大きく受けていることから、鉄道利用者は少しでも改札口に近い所に駐輪する傾向があることがわかる。

4.歩行者の駐輪に対する意識分析

(1) 歩行者からみた歩道の歩きやすさ

被験者からみた歩道の歩きやすさは、歩きやすい、比較的歩きやすいと回答した人は44%で、歩きにくいと回答した人の22%の2倍を占めている（図1参照）。これを年齢別にみると、10～20才代の若年では歩きにくいと回答した人の割合は低く、60才以上の高年では40%を超えており、年齢が高くなるにつれて歩きにくいと答えた人の割合は高くなっている（図2参照）。

さらに、歩きにくいと回答した人に駐輪の影響を尋ねた結果、影響があると回答した人は90%を超えていることから、歩道の歩きにくさの原因は、駐輪によるところが大きいことがわかる（図3参照）。

(2) 歩行者からみた駐輪エリアの認識と評価

歩行者の駐輪エリアに対する認識は、知っていたと回答した人は37%であり、駐輪エリア利用者^{前出2)}の64%と比較すると低くなっている（表2参照）。

表1 駐輪エリアとその周辺の駐輪台数

	測定時刻	駅 前 地			駅 周 辺 地		
		エリア内 (%)	エリア外 (%)	合計 (%)	エリア内 (%)	エリア外 (%)	合計 (%)
平日	10時	147 (26.4)	5 (4.5)	152 (22.8)	82 (30.8)	34 (27.9)	116 (29.9)
	15時	184 (33.1)	25 (22.7)	209 (31.4)	96 (36.1)	39 (32.0)	135 (34.8)
	20時	225 (40.5)	80 (72.7)	305 (45.8)	88 (33.1)	49 (40.2)	137 (35.3)
	合計 (%)	556 (100)	110 (100)	666 (100)	266 (100)	122 (100)	388 (100)
休日	10時	236 (32.1)	72 (27.4)	308 (30.9)	89 (33.6)	43 (30.7)	132 (32.6)
	15時	252 (34.3)	89 (33.8)	341 (34.1)	99 (37.4)	58 (41.4)	157 (38.8)
	20時	247 (33.6)	102 (38.8)	349 (35.0)	77 (29.1)	39 (27.9)	116 (28.6)
	合計 (%)	735 (100)	263 (100)	998 (100)	265 (100)	140 (100)	405 (100)

キーワード；駐輪、歩道、歩行者、福井
連絡先（福井市学園3-6-1 福井工業大学 電話；0776-22-8111 FAX;0776-29-7891）

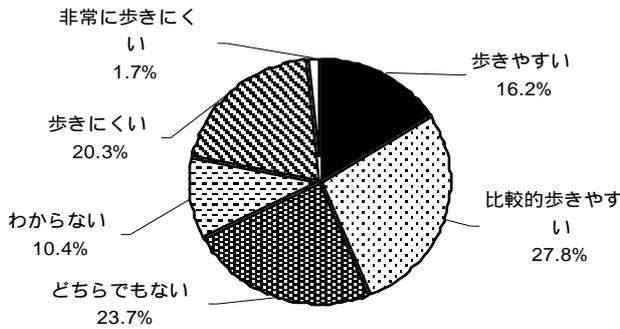


図1 被験者からみた歩道の歩きやすさ

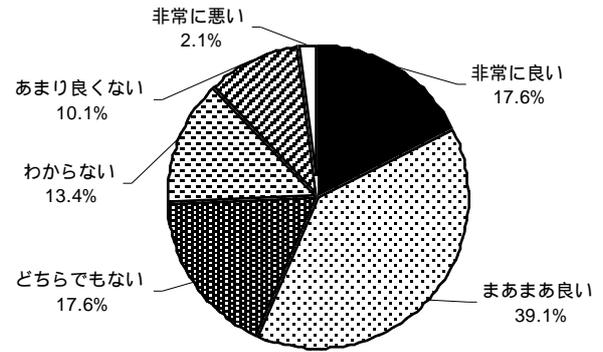


図4 被験者からみた駐輪エリアの評価

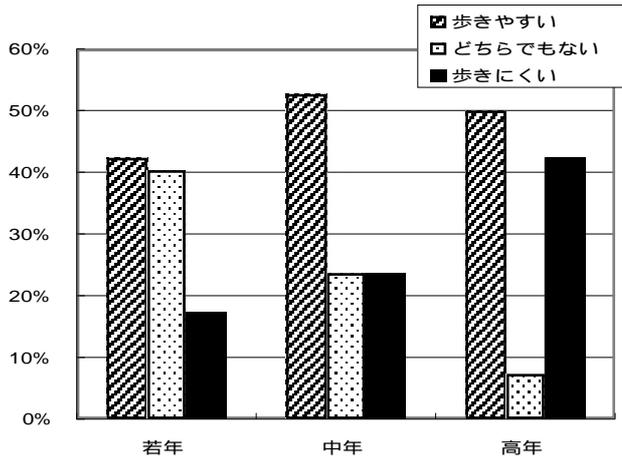


図2 歩道の歩きやすさの年齢別比較

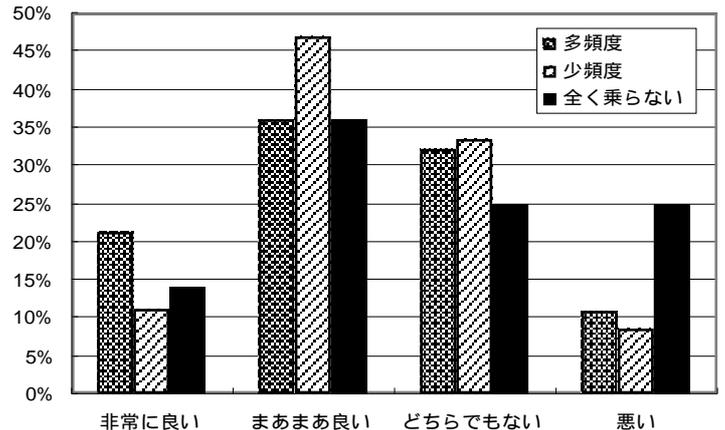


図5 駐輪エリア評価の自転車利用頻度別比較

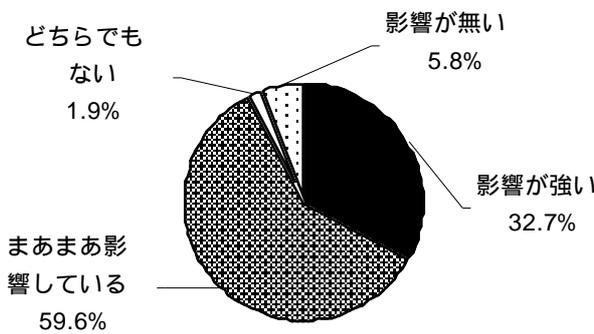


図3 歩道の歩きにくさにおける駐輪の影響

表2 歩行者からみた駐輪エリアの認識

	知っていた	知らなかった その他
駐輪エリア利用者	64.2%	35.8%
歩行者	37.0%	63.0%

一方、歩行者の駐輪エリアに対する評価は「非常に良い」と「まあまあ良い」を加えた約57%が良いとしており、「非常に悪い」と「あまり良くない」を加えた悪い評価の12%を上回っていることから、概ね歩行者は駐輪エリアを評価していることがわかる（図4参照）。さらに、この駐輪エリアの評価を自転車利用頻度別に比較した結果、「非常に良い」と評価した人は「毎日乗る」「比較的良好に乗る」の多頻度で高く

なっている一方、「悪い」と低い評価を下した人は全く乗らない人で25%と、自転車に乗る人より高率であった（図5参照）。

5.まとめ

本研究では、福井駅周辺の歩道上に設置された駐輪エリアにおける駐輪実態の把握と、歩行者へのアンケート調査を分析した結果、次のような知見を得ることができた。

- 1) 通勤・通学に利用されている駐輪エリアは鉄道駅に極めて近い所であることから、通勤・通学を目的とした自転車利用者は少しでも改札口の近くに駐輪しようとしている。
- 2) 駐輪エリアが設置されている歩道の歩きやすさの程度は、年齢が高くなるにつれて歩きにくいと回答した人の割合が高く、その主な理由は駐輪の影響が大きいことを指摘している。
- 3) 歩行者の駐輪エリアに対する認識は駐輪エリア利用者と比較して低いものの、駐輪エリアを概ね評価している。とくに、自転車に乗る人は、自転車に全く乗らない人と比較して高い評価をしている。

[参考文献]

- 1) 和田章仁・木戸伴雄；歩道上自転車駐車に対する沿道商店街の意識実態に関する分析,交通工学研究発表会論文報告集,20,pp.145～148,2000年10月
- 2) 和田章仁・木戸伴雄；歩道上自転車駐車区画利用者の実態とその意識,土木計画学研究・講演集,24(1),pp.165